



退任の挨拶 前教育長 川島 政吉

6月30日の任期満了をもちまして、1期3年間の教育長を退任いたしました。教育長職としても下川町民としても初心者の私に対し、これまで温かく受け入れ、多大なご支援を頂きましたことに深く感謝申し上げます。

3年間を振り返ると、2年間は、新型コロナウイルスの感染防止のための対応が最優先、この1年間は、休止や内容を縮小して実施してきた事業等の見直し、対応に追われてきました。このような状況の中で、道内でも率先して小中学校にエアコンを設置したこと、

専属の地域学校協働コーディネーターを役員職員として小中高に配置したこと、二十歳を祝うつどいをコロナ禍でも工夫して開催できたこと、小中学校の全体が閉鎖するまでの状況にならなかったことなど、それぞれの立場で前向きに取り組んでくれた成果だと実感しております。下川町は、子どもを中心に据えたビジョンが明確で、具現化に向けて、まさに、今求められている多様な人々と協働しながら、様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓いていく資質・能力を育む先進的な取り組みを

町全体で進めており、その中で、3年間一役を担わせていただいたことに、感謝の思いしかありません。是非、下川町の取り組みを、自信をもって発信するとともに、つねにバージョンアップを忘れず、前進していくことを期待しております。

今後、地域の皆様が益々ご壮健で活躍されることをご祈念申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。3年間、本当にありがとうございました。ございました。



就任の挨拶 教育長 古屋 宏彦

7月1日付けで教育長を拝命しました。歴代の諸先輩の功績を引き継ぐとともにその責任の重大さに気を引き締めております。私は6月定例会議の席上で次の通り所信を表明させていただきました。教育行政を執行するにあたっては、三つの柱を意識したいと思いま

す。一つ目は、「子供のために」。将来、社会人になっていく子供たちに何ができるか自分自身に問うていきたいと思えます。幼児、児童、生徒はステージごとに学びを深めて社会に出ていきま

す。子供たちが目指す人生設計ができるよう教職員等のご協力をいただきながら支えていきたいと考えています。二つ目は、「大人のために」。文化芸術スポーツなどの学びは、人生に潤いを与えてくれるものと思えます。適度な負担の範囲で継続して取り組むことができるように文化協会など関係者と情報共有を図りながら課題を解決していきたいと考え

ます。三つ目は、「次世代のために」。「下川町」は、先住民をはじめ開拓に入られた諸先輩のたゆまない努力と次の世代により良い形で引き継ごうとする強い意志あつてこそ今があると考えます。開拓の時代から伝承されている「郡上節」や下川町の名を世に広めてくれた「ジャンプスキー競技」は諸先輩から引き継いでいただいた宝物です。教育を通じて様々な物事を次の世代に引き継いでいきたいと考えます。

最後に「幸せに暮らせる持続可能なまち」の実現に向けて、関係部局や関係機関・団体との連携を図りながら、教育施策の推進に取り組んでまいります。よろしくお願ひします。

